

# 島根小学生プログラミング

## 木戸さん最優秀 全国へ

浜田・石見小

独自のプログラムで制作したアプリケーションの大会出場を決めた。

来栄えを競う島根県小学生プログラミング大会が23日、松江市西川津町の島根大であった。ごみ拾いゲームを考案した浜田市立石見小6年の木戸亮太さん(11)が最優秀賞に輝き、全国大会出場を決めた。

「ごみ拾い大作戦」と題した木戸さんのゲームは、画面上にランダムで出現するごみを制限時間内に拾い集めればクリアとなる。ごみ拾いを妨害するワニに近

づくると一定時間追いかかれ、捕まると減点される。娯楽性と技術の高さが評価された。

全国大会は来年3月に東京都内であり、木戸さんは「細かい機能を追加するなどできることを尽くして臨みたい」と意気込んだ。

優秀賞はごみの分別ゲームなどを手がけた雲南市立海潮小6年の足立悠太郎さんと須藤太一さんのチームだった。

山陰中央新報社、島根大、松江工業高等専門学校などが主催。3個人、1団体の計5人が参加した。(原暁) このほかの受賞者は次の皆さん(敬称略)。

▽努力賞 山根文司(松江市立内中原小5年)、金山翔

(島根大付属義務教育学校前期課程4年)



「ごみ拾い大作戦」と題したゲームを制作し、最優秀賞に輝いた木戸亮太さん。松江市西川津町、島根大